

科目名	ネット時代のメディア教育特論	担当教員	中西 茂
科目属性	専門科目 E	単位数	2単位(面接0.5単位)

【授業の目的・ねらい】

【授業概要】

インターネット時代にはメディア教育の必要性が飛躍的に増しています。10代の子どもたちも、発達段階に応じて学んでおく必要があります。ジャーナリズムの世界に身を置いてきた立場からみると、メディアと付き合う作法は、これからのあらゆる学習のベースになる汎用的能力だと考えます。

この授業では、小中学生には小中学生なりに、高校生や大学生相手ならそれにふさわしい形で、各教科など、学校教育の中にネット時代のメディア教育の要素を織り込んでいくことをめざします。まず、メディアを取り巻く環境の実態を確認し、メディアと付き合う上でのスキルについて学び、そのうえで、授業者の提案を参考にしながら、どんな学校種のどんな内容の授業プランを作るかを考えていきます。

もちろん、メディアと付き合う作法を身につけることは、成人にとっても、ネット上の世界を、互いが協力し合う共生社会に近づけていくための一助になるはずです。

【授業到達目標】

1. ネット時代のメディアリテラシーの基礎を説明できる
2. ネット時代のメディアリテラシーの基礎を前提にして、児童・生徒・学生に向けたメディア教育の授業プランを提案できる

【授業計画】

本15回の授業内容は「総論編」(1回～4回)、「スキル編」(5回～10回)、「実践編」(11回から15回)の3段階に分け、授業者配布資料や提示した参考文献で学習します。途中、総論編の終了後に現状と課題について2000字程度のレポートを提出してもらいます。スクーリングは、その時点でのニュースを素材にしながらの講義、討論、授業提案の3部構成とします。その後2週間以内に4000字程度のレポートを提出する形で科目修得試験を受けてもらいます。

(授業計画)

- 1) ネット時代のメディアの現状を知る①
- 2) ネット時代のメディアの現状を知る②
- 3) ネット時代の教育界の現状を知る①
- 4) ネット時代の教育界の現状を知る②
- 5) 「何でも検索」時代の情報信頼度
- 6) 新しいとは限らないネット情報
- 7) 情報の出所と原典を確認する
- 8) ポータルサイトの配信元の多様性を知る
- 9) 記事データベースを生かす
- 10) ネット頼みに陥らないための紙媒体活用
- 11) 海外メディアを日本語で読む
- 12) コピペ問題を考える
- 13) 打ち言葉とコミュニケーション
- 14) ヘイトスピーチはなぜなくなるのか
- 15) ファクトチェックでメディアリテラシーを育む

【評価方法】

レポート（25%）、スクーリング（25%）、科目修得試験（50%）の割合で行います。

【教科書】

「メディアの授業 ことばの授業」（授業者配布資料）

【参考図書】

『メディアと日本人』（橋元良明、岩波新書、978-4004312987）
『メディア不信 何が問われているのか』（林香里、岩波新書、978-4004316855）
『ソーシャルメディア論 つながりをも再設計する』（藤代裕之、青弓社、978-4787233912）
『「社会調査」のウソ リサーチ・リテラシーのすすめ』
（谷岡一郎、文春新書、978-4166601103）
『戦前日本のポピュリズム 日米戦争への道』（筒井清忠、中公新書、978-4121024718）
『フェイクニュース 新しい戦略的戦争兵器』（一田和樹、角川新書、978-4040822440）
『情報戦争を生き抜くー武器としてのメディアリテラシー』
（津田大介、朝日新聞出版、978-4022737939）

